

ニーラン神石 （ニーラン カントゥイ）：神々の来訪

竹富島のアイデンティティは、祭りや唄、舞踊、工芸などにみられますが、島の人々は、特に神を重要であると認識しています。この石はニーラン神石と呼ばれており、伝説上の海の向こうの天国のような場所であるニライカナイという楽園から、竹富島に毎年船でやってくる神々の上陸地点を示しています。穀物の種子、豊穡の約束を携えてやってくる神々は、この石に船を係留します。

神々の到着は、旧暦の八月八日、新暦だと九月に行われるユーンカイ（世迎え）と呼ばれる儀式で祝われます。この儀式では、「トンチャー」という神歌が謡われ、太鼓や銅鑼が鳴らされます。